

第96回企画展「身近な鳥の巣と卵」が始まります

鳥の博物館がこれまでに収集した鳥の巣と卵の標本、および鳥が巣で子育てする様子を再現したジオラマを展示します。

多くの鳥は抱卵・育雛のために巣を造ります。そこには子孫を残すためのどのような工夫があるのでしょうか。私たちは普段、野鳥の巣や卵を見る機会はありませんが、鳥の巣と卵の標本や営巣の様子を再現したジオラマを用いて、鳥たちの子育てについて紹介します。

展示期間：2026年7月11日(土)～11月8日(日)



企画展ポスター

イベント情報

あびこ自然観察隊「ツバメのねぐら観察会」のご案内

夏の終わりの夕方、手賀沼沿いのヨシ原にはツバメたちが、ねぐらに集まってきます。群れて飛ぶツバメたちを観察して、彼らの暮らしの一部をのぞいてみましょう。往復で手賀沼いを3kmほど歩きます。

開催日時：2026年8月15日(日) 9:00～12:00

8月4日(火)より、ちば電子サービスにて受付開始



ツバメ

利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
(最終入館午後4時)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、館内整理日、
年末年始(12/29～1/4)

	区分	個人	団体
入館料 (当日有効)	一般	300円	240円
	高校生・大学生	200円	160円
3館共通入館料 (1か月有効)*	一般	500円	
	高校生・大学生	400円	

- ・入館料免除の方①70歳以上の方 ②障害者手帳等をお持ちの方(介助者1名まで)
入館料免除の対象の方は証明できるものをご提示ください
- ・中学生以下は入館無料

*白樺文学館、杉村楚人冠記念館との共通券

●お問い合わせ：我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

☎: 04-7185-2212 FAX: 04-7185-0639 ↑博物館 HP

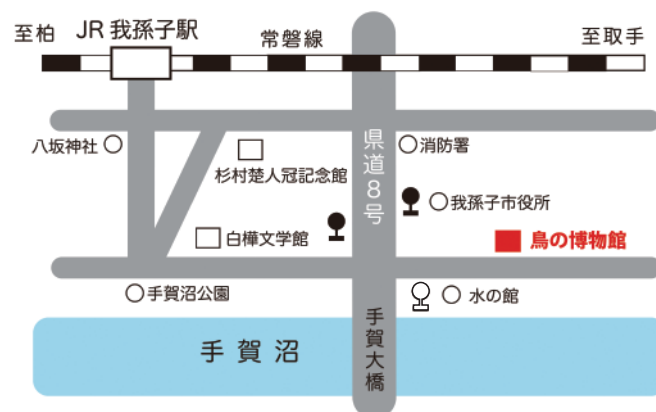


交通案内

JR 我孫子駅南口バス停より市役所経由
バスで「市役所」下車、徒歩5分

天王台駅北口バス停より、アイバスで「水の館」下車(平日のみ運行)

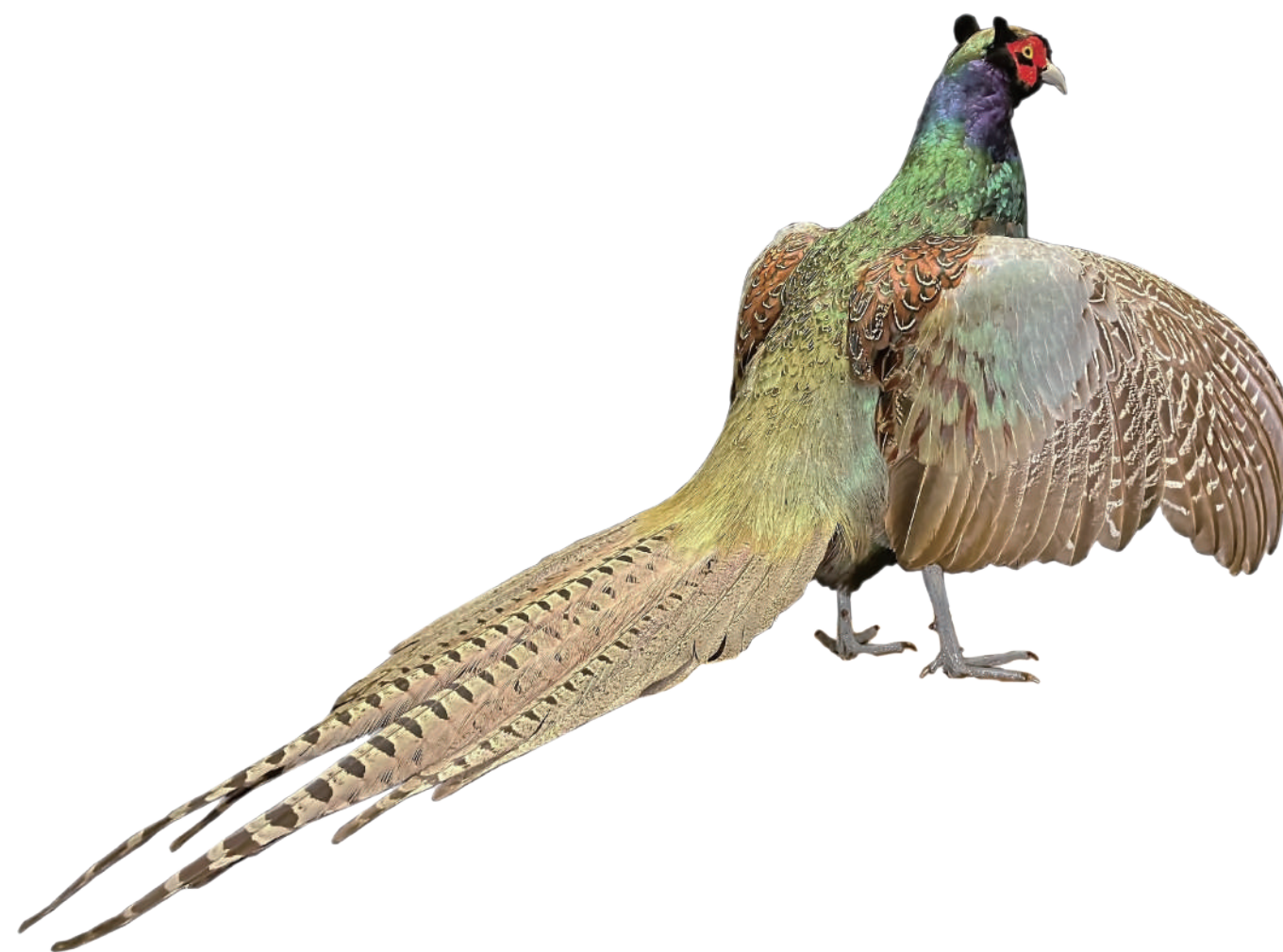
自動車利用の方は地図をご覧ください(駐車場無料/大型バス駐車可)



あびこ鳥だより

2026
No.1

ABIKO BIRD MUSEUM LETTER Vol.69



- ・特集「夏のイベント、はじまります」
- ・手賀沼の鳥類調査結果
- ・第96回企画展「身近な巣と卵」が始まります
- ・あびこ自然観察隊「ツバメのねぐら観察会」のご案内

表紙の鳥 キジ

「夏のイベント、はじまります」

毎年7月から8月はイベントがたくさん

鳥の博物館は夏休み期間中、お子様を連れたご家族の来館が増えて賑やかになります。来館者のニーズに応えるべく、夏の間はイベントの数を増やし、何度来ても楽しめるように準備しています。今回は数あるイベントの中から、私が担当している「自然ワークショップ」と工作を中心とした「夏の遊びと研究大集合」の一部をご紹介します。

私が企画するイベントでは室内、屋外どちらも活用します。大人からお子様まで、いろいろな体験をして欲しいという思いがあります。自分が他の施設を利用した際に、対象が限定されていて参加できず、残念に思うことがあります。内容はもちろんのこと、タイトルも「誰でもどうぞ。」という雰囲気を出すが、イベントを企画する上でのモットーです。イベントの担当者によって、内容や対象年齢がバリエーション豊かであることが、当館のイベントの特徴の1つといえます。



▲自然ワークショップ「手賀沼の魚をみよう」の様子。手賀沼で採集した生き物を種ごとに分けて観察します。



▲自然ワークショップ「メダカでアクアリウム」で主役のミナミメダカの稚魚。当館の目の前にある手賀沼周辺で採集したミナミメダカを元に増やしています。



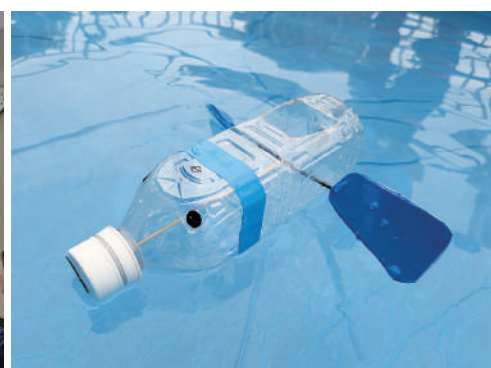
▲「メダカでアクアリウム」でのアクアリウム作り。みなさん作業に夢中です。ミナミメダカはどういった魚なのか、飼育の仕方など全てレクチャーします。



▲「手賀沼の魚をみよう」では生き物との触れ合い方を説明します。続けて参加している方の中には年々上手になっていくお子様がいて驚かされます。



▲夏の遊びと研究大集合の「鳥のスカイクリュー」でのデモンストレーション。ゴムの力でプロペラが動き、高く飛ぶ工作。飛行の仕組みに詳しいスタッフが説明しました。



▲「ばしゃばしゃペンギン」はペットボトルで作る工作。プールで泳がせて楽しみました。調整して動きを洗練させることに夢中なのは大人の方です。



▲「ゴーストミミズク」は魔女に魔法をかけてもらい、ゴーストを呼び出そうという工作。モコモコと現れるゴーストミミズクに大興奮です。魔法にも気合いが入ります。

イベントにはみんなで協力して挑みます

イベントは企画している担当者だけでなく、たくさんの人の力で成り立っています。当日はもちろんのこと、事前準備にも時間がかかります。イベントを手伝ってくれるボランティアスタッフ（当館では市民スタッフという名称）にはイベント内容を説明し、工作の場合は参加するスタッフ全員に作り方を習得してもらう必要があります。イベントが終わった後には気が付いたことを担当者とスタッフで話し、次回の参考にします。そういった機会には、立場や活動内容に関わらず、自由に発言できるように、普段からのコミュニケーションの機会が重要だと感じています。参加者をお迎えするまでには、道具や材料の用意だけではないことも知っていただければと思います。イベントは夏以外にもあります。みなさまのご参加をお待ちしています。



科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	総計
カモ科	オカヨシガモ		2	4				6
	ヒドリガモ	240	75	19	13			347
	カルガモ	216	193	170	74	23	18	694
	マガモ	638	294	65	3			1000
	オナガガモ	84	2	66				152
	コガモ	99	122		84			305
	ホシハジロ	2		3				5
	ミコアイサ	5	4					9
クイナ科	クイナ	1		2	1			4
	バン	4	4	2				10
	オオバン	96	94	103	61	9	5	368
	ヒクイナ			2	1			3
カイツブリ科	カイツブリ	29	27	35	10	9	9	119
	カンムリカイツブリ	41	25	50	12	4		132
	ハジロカイツブリ	3	2	1				6
チドリ科	コチドリ				2		1	3
シギ科	タシギ		1	1				2
カモメ科	ユリカモメ	54	1	2	2			59
	セグロカモメ	2	2	4	1			9
	コアジサシ						1	1
	アジサシ					5		5
	クロハラアジサシ						7	7
ウ科	カワウ	74	92	164	138	83	85	636
サギ科	アオサギ	12	13	34	16	14	9	98
	ダイサギ	5	3	7	5	8	6	34
	チュウサギ					2	1	3
	コサギ	11	3	10	7	4		35
ミサゴ科	ミサゴ	1	2	2	1	1	1	8
タカ科	トビ	3	1	1	1	1	2	9
カワセミ科	カワセミ	6	8	10	7	3	4	38
カラス科	ハシボソガラス	8	8	5		3		24
	ハシブトガラス	0	1					1
セキレイ科	ハクセキレイ		1					1
13科	33種	1634	980	762	439	169	149	4133

外来種	コブハクチョウ	5	9	11	11	8	7	51
-----	---------	---	---	----	----	---	---	----



バン（1月）



カルガモ（2月）



ミサゴ（3月）



オオバン（4月）



アオサギ（5月）

調査日：2026年1月21日、2月20日、3月17日、4月9日、5月19日、6月12日